

いすみ農業改良

普及だより

第70号

平成30年1月19日

発行：夷隅農業事務所

TEL0470-82-2213 FAX0470-82-3975 〒298-0212 千葉県夷隅郡大多喜町猿稻14

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-isumi/>



開講式にてお城を背景に集合写真



ナバナの播種について学びます



農業簿記の講座にも多くの受講生

夷隅の地で営農実践真っ最中
いすみ農業実践塾

平成二九年度のいすみ農業実践塾では、Uターン就農の方や、集落営農に取り組む多くの方が参加し、受講生二三名、聴講生五名と昨年を大幅に上回る人数で学んでいます。

今年度は特に、夷隅地域の特産であるナバナ、管内で栽培が広がっているケイトウ、ソラマメ、スナップエンドウ等の品目に絞って講習会を実施し、学んだことを現地で活かせるようにしています。

本年学んだ品目の栽培を実践している方もいます。特に集落営農に取り組むグループでは、出席者が得た知識を地域に持ち帰り、集団で露地野菜等の栽培に取り組んでいます。

農業生産の基礎となる病害虫防除や土壌肥料、さらに農業簿記の講習にも多くの受講生が参加し、農業生産への強い意欲が感じられます。受講生の今後の地域農業の担い手としての活躍が期待されます。(四面に三〇年度の募集記事掲載)

**中山間地域における
タマネギ栽培の可能性を
検討**

●タマネギ栽培の狙い

勝浦市の大森地区および名木・木戸・西原地区では、ほ場整備事業の導入と、これに伴う営農作物の検討を行っています。

平成二八年度はタマネギに注目し、約八aの試験栽培を開始しました。タマネギは、鳥獣被害を受けにくく、機械化が可能のため、当地域における有望品目と考えられるためです。今回は中晩生品種を用いて、一二月に定植し、梅雨入り前の五〜六月に収穫した後、他産地の出荷量が少ない七〜八月まで貯蔵してから出荷する作型の検証を行いました。

●試験栽培の結果

J A いすみや全農ちば、機械メーカー等の関係機関による協力の下試験栽培に取り組み、十二月下旬に機械による定植を行いました。その結果、高畝や明

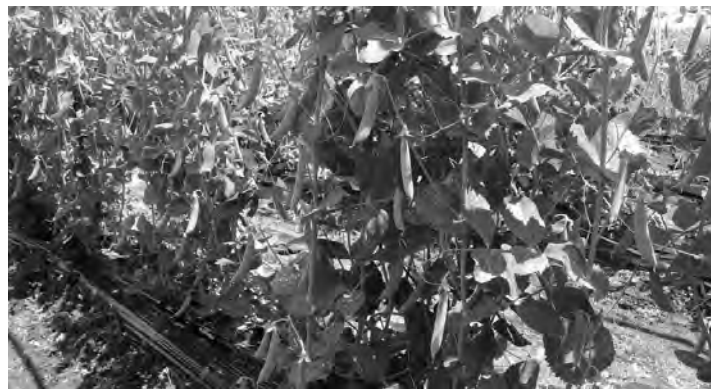


収穫されたタマネギ

渠などの排水対策をしつかり行うことで、粘土質のほ場においても良品質のタマネギを収穫できることが確認されました。単収向上や貯蔵中の腐り対策など、課題もまだ残されていますが、現在、前作の反省点を踏まえながら、約四〇aに面積拡大して二作目のタマネギ栽培に精力的に取り組んでいます。

●安定した人気！
夷隅地域で、冬季の品目として栽培されている「スナップエンドウ」の人气が近年上昇しています。日本農業新聞「野菜の売れ筋ランキング二〇一六」では二位につけました。

●作型
夷隅地域では畑に直播きする



5月には鈴なりです

**スナップエンドウを栽培
してみませんか**

露地栽培が一般的です。十一月に播種して五月の連休直前に収穫する秋まき栽培と、二月に播種して連休後に収穫開始の春まき栽培があります。

※栽培には仕立て方・病害虫防除など、工夫が必要です。出荷を目指す生産にご興味のある方は、夷隅農業事務所改良普及課までお気軽にご相談ください。



資材は支柱・マルチ・キュウリネットと簡便です

**梨「甘太」の
栽培面積拡大中!**

●甘太の特徴

「甘太(かんた)」は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構で開発され、平成二五年に品種登録された新品種です。特徴は、高糖度で食味が良く、栽培も容易で収量が多い晩生の梨と言われています。

一宮・岬梨組合では、平成二六年に実施した組合生産部の視察研修の際、この果実の試食を行いました。参加農家は、その食味の素晴らしさに感動し、「甘太」を将来の市場出荷用品種の候補として栽培を始めました。

●新高の代わりに改植進む

一宮・岬梨組合岬支部内にはこれまで三〇〇本程度の苗木が導入され、収穫時期が重なる「新高」の代替品種として改植が進んでいます。重粘土質で排水不良地が多く、苗木の生育には思わしくない面もありますが、生産者の努力で出荷に向けて生長

しています。

また、一部では種苗法に適合する形で既存樹に接ぎ木を行い、着果させた事例もあります。果実の食味は、評判どおり非常に良く、果形もまずまずで期待どおりの出来でした。

今後、さらに生産量を増やし、地域の特産品として定着していくことを期待しています。



現地農家の圃場の「甘太」

**ケイトウの試作に
取り組む**

●夏の仏花に愛用!

ケイトウは、花き品目の中で比較的労力や資材経費が少なく、栽培が容易です。夏の仏花にも愛用され、四月にハウスで播種すれば、露地でも七月盆に間に合います。



ハウス内で揃って育ったケイトウ

夷隅地域内の栽培事例では、いすみ市の東中滝地区で平成二四年から栽培され、高品質な花を出荷しています。本年度は勝浦市大森地区及び名木・木戸・西原地区で試作を行いました。

名木・木戸・西原地区では、

育苗ハウスで四月一六日にセルトレイ播種、五月一八日にハウス内に定植を行い、七月一三日に出荷することができました。播種・定植・収穫調製作業は共同で行い、最初は慎重でしたが、中盤から慣れて早くなり、余裕も出てきました。



共同で選花作業

●ストックの前作として導入できます。

今後は、ハウス栽培を増やそうと考えているとのこと、今後が楽しみです。

ストックの前作として、また集落営農の一品目として導入を検討してみたいかがでしょう。

夷隅からイネばか苗病をなくそう!

種子生産ほ場周辺で「イネばか苗病」が多発し、水稻種子の生産・供給に影響が出ています。採種ほ場から二百メートル以内で発生すると種子として出荷ができません。

種子の安定供給を図るため、以下の技術対策にご協力下さい。

①自家採種は原則しない

本病は種子伝染するため、汚染のおそれのある種子は自家採種しないでください。

②育苗箱や被覆資材も伝染源

ケミクロンG五百倍液（処理後水洗）またはイチバン五百倍液（処理後の水洗は不要）散布による消毒を行います。

③化学合成農薬による種子消毒

消毒効果を確実に確保するため、ヘルシードTフロアブルやモミガードC・DFなど化学合成農薬による消毒をお奨めします。化学合成農薬による防除効果は、水温10℃未満では効果が劣る

ため、設置場所は屋外を避け、水温を確保できる場所で行いましょう。

④浸種時は、ハトムネ催芽器のシャワー機能使用禁止

シャワー機能を使うと、籾表面を覆う消毒剤の被膜が剥がれ、再汚染するリスクがあるので、使わないようにしましょう。

⑤苗箱の発病株を適切に処分

育苗箱内で発病苗を発見した場合は、抜き取ります。また、抜ききれないほど多数発生した場合は、苗を焼却処分するか、土中に埋没処理します。



ばか苗病で徒長した株

あつまれ! セミナー・実践塾受講生の募集

(1) 農業経営体育成セミナー

- 対象者 新たに農業に就いた方（概ね40歳まで）
- 開催時期 6月～2月（月1回程度）
- 内容 農業経営に関する「知識・技術」や「問題解決能力」の習得、「地域の仲間づくり」を目的として、3年間のカリキュラムを組んでいます。

(2) いすみ農業実践塾

- 対象者 主に定年帰農者やUターン就農者等の方（40歳から65歳）で、農協や直売所等へ生産物の出荷を目指す方
- 開催時期 6月～3月（月1回程度）
- 内容 受講後に速やかに農業生産・出荷が可能となるよう、夷隅地域の主要品目や生産が広がりつつある品目等について実践的な講義・実習を行っています。



受講中のセミナー生

上記の両研修ともに原則無料です。開講は平成30年6月を予定しています。受講を希望される方は、平成30年5月25日までに、改良普及課へ御連絡ください。
 電話：82-2213 FAX：82-3975